

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

高砂ワクワク自転車プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県高砂市

3 地域再生計画の区域

兵庫県高砂市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本市の人口は、1995年の97,632人をピークに減少し、2015年の国勢調査によれば、91,030人まで減少している。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2045年には64,963人となり、2015年と比較して約71%となる見込みである。

年齢3区分別人口の推移について、14歳以下の年少人口及び15歳から64歳までの生産年齢人口の割合は年々減少する一方で、65歳以上の人口割合は増加している（2020年4月末時点で年少人口13%、生産年齢人口58%、老年人口29%であり、2045年には年少人口11%、生産年齢人口52%、老年人口37%）。このように少子高齢化や転出超過にみられる人口減少は、地域の利便性、市民サービス、文化継承等の低下という様々な課題を持っている。

他方で、高砂市では、昼間人口が100を超えている。また、市内に所在する事業所で働く従業者数は、2012年と2016年との比較で43,539人から46,197人と2,658人増加しており（経済産業省 経済センサス）、有効求人倍率は2015年度の0.75から2019年の0.99と微増の傾向がみられる。これらのことから、市の人口減少は見られるものの、市内事業所で働く人は増えており、これらの方々を関係人口として、高砂市につながっていただくことが大切であると考えられる。

近年、市では人口減少対策の一つとして市の魅力をPRするため、市内の様々な観光資源をSNSを活用して紹介してきた。しかしながらインパクトのあるシティプロモーション施策が少なく人口減少の抑制には至っていないため人口増につながっていない。また、様々な観光資源があるにもかかわらず、それらが市内に点在しており、それぞれを結ぶ交通機関が少ないことも、観光等の課題となっている。

このことから、関係人口や交流人口の増加を目指す上で、本市の地理上の特徴として市域が10km四方であって、ほぼ平坦であることや播磨地域の穏やかな気候を強みであると捉え、新たな取り組みとして身近な移動ツールである自転車の活用が有効と考える。身近な移動ツールの自転車を活用したサイクルツーリズムを活用し、関係人口、交流人口の増加を通じて、将来的には移住定住を促進し、人口減少を抑制していきたい。

一方、自転車を活用するにあたり、本市は人身事故に占める自転車関係事故の割合が30%以上となっており、その解消も大きな課題となっている。日々の生活での自転車の活用は基より、観光の推進に自転車を活用するためにも自転車を活用したまちづくりが必要である。また、ウィズコロナ、アフターコロナの中、自転車は有効な手段となる。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

高砂市では「暮らしイキイキ 未来ワクワク 笑顔と思いやり育むまち 高砂」を2030年の高砂市の将来像としている。

今の暮らしを充実させ伝統、文化、自然を大切にすること、未来の暮らしを楽しみに思い、新しい魅力づくりを進めることを目指し、SDGsの考え方を取り入れた、誰一人取り残さない、魅力的なまち、持続可能なまちを目指す将来像とする。

産業においては、現在の播磨臨海工業地帯の中核をなす部分も含め、高砂市の資源や技術を活かした特徴ある産業の育成、持続化されていることを目指す。主な取組として、新事業への進出、イノベーションの創出、地域ブランド化、知識産業の活性化などにより地域経済をけん引する企業と、用途地域を含む各種規制の緩和や市の事業との協働により、事業者の生産性の向上や競争力

の強化、新たな事業者の誘致に取り組む。また、雇用については、ポストコロナを見据え、従業員の通勤時間の短縮、テレワーク、ローテーション勤務、オンライン会議など多様化する価値観を反映した働き方に取り組み、人材を継続的に確保しようとする事業者を支援していく。

市の人口に対しても、2030年の将来人口を84,000人とし、人口減少により生じる影響を克服するため、将来を担う若者が未来に希望を持てる高砂市を目指す。

このような将来像を掲げ、この度の地方創生に係る事業として、高砂市を知ってもらい、「来てみたい、見てみたい、住んでみたい」と思ってもらうよう誘客と交流の促進を図るため、平成30年に立ち上げた高砂市の歴史・文化・自然・グルメなど様々なもののPRを進めている（一社）高砂市観光交流ビューロー（以下「ビューロー」という。）と連携し、サイクルツーリズムによるまちづくりに取り組む。

事業の展開としては高砂市の持つ、10km四方というコンパクトで平坦な地形を活用し市民のサイクリングライフを促進し、貸自転車事業や駐輪場及び自転車道の整備を図る。また、サイクリストなど新たなターゲットの掘り起こしなどを行い、市内に点在している観光地や観光施設を自転車で結ぶことにより点を線にし高砂市全体をエリアとして楽しんでもらえるような取り組みを進めていき、滞在時間の延伸を図り市域全体の誘客と活性化を促進していく。高砂市地球温暖化対策実施計画においても、自転車利用による環境負担の低減を心がけていることから、市民、通勤者等へもサイクリングライフを促進し二酸化炭素の削減に繋げていく。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2021 年度増加分 1 年目	2022 年度増加分 2 年目
観光客入込数(人)	1,330,504	10,000	10,000
自転車関連イベントの開催数(回)	0	2	2
市内の自転車事故件数を 176 件から、前年比-10 件を継続して行い、人口 1 万人当たりの事故件数を下げる。(件)	176	-10	-10

2023 年度増加分 3 年目	K P I 増加分 の累計
10,000	30,000
2	6
-10	-30

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 の③のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

高砂ワクワク自転車プロジェクト

③ 事業の内容

現代において、人口減少や少子高齢化は避けては通れない問題となっている。高砂市に「見てみたい、来てみたい、住んでみたい」と思える人や多く

の人が行き交う仕掛けづくりが必要と考える。まずは、どのような地域で、どのように生活できるかを楽しく知っていただくための働きかけを行うことが必要である。

そこで、市域が10km四方であって、ほぼ平坦であり、また播磨地域の穏やかな気候を強みとして、「サイクリングライフ・サイクルツーリズム」をキーワードとして事業を行う。サイクリングガイドを育成し、グルメ、歴史、住まい、仕事など様々な視点から市内を巡るコースやMAPを作成する。そのコースやMAPを活用した地域を巡るサイクルイベントを開催する。また、市域が狭いコンパクトシティであることから、近隣市へのツーリングも容易である。よって、それぞれの観光拠点を行き来することで近隣市との連携を図っていく。

また、自転車を活用するにあたって、交通事故防止の観点から交通安全啓発の取り組みも併せて行う。また、レンタサイクルを利用することにより、気軽に市内を巡ることができる環境を作る。市内観光案内所を拠点として、近隣店舗との連携により、車では気づかない楽しさ面白さの掘り起こしを図る。市外からのサイクリストは観光施設については年間約1万人程度来ていると想定し、環境整備（MAPの作成）・自転車のまち高砂市のPR事業、2年目以降のイベント事業の開催により、10万人を目指す。また、身近な交通手段である自転車は、子どもから高齢者まで幅広い世代において、通学、通勤、買物など様々な目的で日常生活に利用されている。特に自転車で地域を巡り、沿線の魅力を楽しむ「サイクルツーリズム」の人気の高まりを受け、自転車の利用環境や自転車利用者のマナー向上等を図り、近隣市町と連携し、魅力的なサイクリングルートの創設によるサイクルツーリズムの推進や、サイクリングによる健康増進を総合的に推進していく。しかしながら、当市は自転車に関係する事故が多く、兵庫県の自転車事故人口1万人当たりの平均件数より極めて高いため、「サイクルツーリズム」と並行して、「交通安全教育」を継続して行う必要がある。また、自然景観、歴史・文化、特産品などの地域の魅力の発信は当市の玄関口であるJR宝殿駅、JR曾根駅及び山陽電鉄高砂駅を中心に行い、多様なサイクリストがそれぞれのニーズに基づいた必要な情報を容易に確認できるための情報発信やプロモーションを推進

していくことで、サイクルツーリズムによる関係人口や交流人口を増やしていく。

自転車を活用しての事業を行うにあたり、自転車通行空間の整備・安全性の確保、駐輪場利用の快適化、自転車事故抑制のための啓発等に加え、民間と連携したサイクル事業を行うなど、安心して快適に自転車を利用できる環境の創出にも取り組む。

平成 30 年度 高砂市内の主要駅の乗降客数

駅名	乗降客数	第 1 交通手段	第 2 交通手段
J R 宝殿駅	19,568 人	自転車	徒歩
J R 曾根駅	8,222 人	自転車	徒歩
山電高砂駅	5,543 人	徒歩	自転車

令和元年度 高砂市内自転車関係事故件数

人口	自転車の関係する事故件数（市）	人口 1 万人当たりの件数	
		高砂市	兵庫県（平均値）
88,492 人	176 件	19.89 件	10.46 件

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

ビューローの会員増強による事業の自立化、MAP 等に対する広告収入協賛金、参加費等によるイベントの開催、レンタサイクル事業収益の増

【官民協働】

官民共同で運営するビューローにおいて、サイクリングによる誘客促進計画（アイデア）を作成、民間企業や企業の労組、公共交通機関などを通じ PR 活動と誘客の促進を実施することにより、市の活性化につなげていく。

また、他の民間企業とのパートナーシップの構築を一層促すことを目的に地方応援税制（企業版ふるさと納税）を活用し、官民協働に向けた取

り組みを強化する。

【地域間連携】

サイクルツーリズムを実施するにあたり、コース設定を近隣市町へも依頼し進めていく。

【政策間連携】

本市は周囲10km四方のコンパクトでほぼ平坦な地形を有している。その中に様々な観光資源が点在しており、それぞれを結ぶ交通機関として環境にやさしく健康にもよい交通手段である自転車を活用した新たな観光施策の推進を図っていく。しかしながら、本市の課題の一つとして、自転車による事故の増加も挙げられている。そこで、サイクルツーリズムの実施による観光の推進と同時に自転車利用の快適化や安全に対する施策に取り組み、地域の活性化と安全、安心なまちづくりを目指す。また、サイクルツーリズム事業を進めることで、高砂市への関心を高め、移住・定住施策へも繋げる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度6月、3月末時点のKPIの達成状況を経営企画室が取りまとめ、総合政策審議会の評価・検証を受け、議会の関与を得ながら検証結果をまとめる。

【外部組織の参画者】

総合政策審議会：公募市民、市民団体、産・官・学・金・労・言の委員を含む条例に基づく附属機関

【検証結果の公表の方法】

必要に応じて「高砂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に反映させる。また、ビューローの外部理事及び内部理事により、すべての事業を検証し見直し等を決定する。検証結果は毎年度6月時点で市ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 36,658 千円

⑧ 事業実施期間

2021年4月1日から2024年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし。

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2024年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。